

## 丸山製茶株式会社

主な品目

緑茶



主な輸出先国・地域

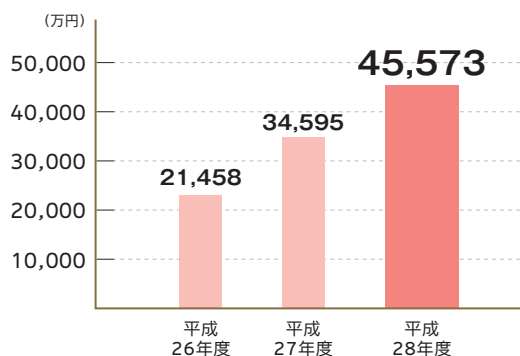
ドイツ、台湾、米国、フランス、  
イタリア等(50カ国)

## 〈輸出取組の概要〉

- ◆ 平成23年2月、自社のグループ企業として農業生産法人(株)まるやま農場を立ち上げ、グループ内においてお茶の生産から加工販売まで手掛ける垂直統合のビジネスモデルとして、国内有数の茶産地である掛川地域の茶業振興に取り組む。
- ◆ 具体的には、輸出先国・地域ごとの残留農薬規制に対応した原料調達や海外有機茶市場の伸長を踏まえ、地元栽培農家とともに有機栽培研究グループを発足し、輸出先国・地域の嗜好にあったお茶の生産や製品の開発に取り組むとともに、世界的需要が高まっている抹茶の製造を開始し、お茶の輸出を展開。

## 〈輸出実績〉(平成17年から輸出開始)

|        | 輸出額(万円) | 輸出量(t) | 出荷時期 |
|--------|---------|--------|------|
| 平成28年度 | 45,573  | 184    | 通年   |
| 平成27年度 | 34,595  | 125    |      |
| 平成26年度 | 21,458  | 95     |      |



## 輸出に取り組んだきっかけ

- ・日本食、更には日本茶・抹茶の海外でのブームを捉え、消費が低下する国内マーケットだけではない新たな需要の開拓とともに、国内の茶生産農家の所得確保のためにも海外マーケットへの挑戦が必要であったため、輸出に取り組み始めました。

## 取り組む際に生じた課題

- ・輸出においては残留農薬や放射性物質規制等、各国ごとに異なる食品安全上の規制をクリアしていくことが課題です。特にヨーロッパでは、残留基準が設定されている農薬の種類が少ないため、この基準に適合することができる有機日本茶・抹茶の販売に注力しています。海外での需要の高まりを受け、有機茶の市場単価は平均よりも高い一方で、生産が安定せず収量も減少するため、農家の経営上のリスクが懸念されています。
- ・海外においては、抹茶製品の偽物も多く販売されているため、現地において、本物の日本茶・抹茶を流通させる販売チャネルが必要であり、合わせて現地での商談やアフターケアへの対応も必須であると考えています。



【お茶の産地 掛川市】



【海外での抹茶ブーム】



【JAS有機製造加工の認定取得】

## 生じた課題への対応

- ・海外のオーガニック認証も見据えたお茶生産を拡大するため、自社グループの(株)まるやま農場が主体となり、地元生産者と栽培グループを形成し、有機栽培に取り組んでいます。また、栽培グループ内の認証取得費用を一括して(株)まるやま農場が負担するとともに、申請手続きを行い、栽培グループとして認証取得を推進しています。
- ・輸出先国・地域の流通業者を介さない販売ルートを確立し、生産から製造、販売まで一気通貫のスキームを構築し、生産農家と連携して輸出に取り組んでいます。
- ・持続性の高い高付加価値なモノ作りを推進し、日本茶・抹茶の品質の高さ、奥深さを訴求し、製品の差別化を図りました。
- ・平成26年にロンドンにおいて、現地企業との合併事業として3店舗の抹茶バーをオープンさせました。その後、日本茶ワークショップを定期的に開催することで日本茶・抹茶の啓蒙・普及活動を展開中です。

## 対応の結果

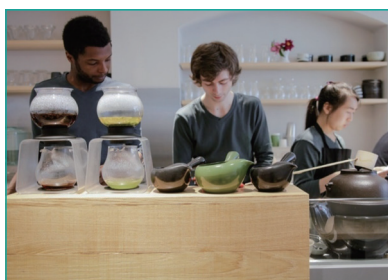
- ・低迷する国内茶業の厳しい環境の中、新たな活路として海外市場を開拓し、農家の販路・収益確保に繋げました。また日本茶・抹茶を中心に据えた日本のカフェスタイルのEU市場への店舗展開においては、ロンドンを拠点として高品質な日本茶・抹茶の卸売を行い、輸出先国・地域の流通業者を介さない、自社の直接管理による流通拡大に寄与しています。

## 今後の課題・展望

- ・海外での店舗運営の成功モデルを日本国内にフィードバックしていくことで、国内におけるインバウンド事業と輸出の好循環の形成を目指しています。また、成長著しいASEAN市場への進出も視野に入れています。
- ・海外の抹茶需要の増加に対応すべく、抹茶生産を拡大するため、てん茶加工施設の新設を計画しています。
- ・抹茶が国際化すればするほど、海外では外国産との競合が激しくなり、差別化を図る必要があります。真の抹茶を海外に知らしめると同時に、日本から色合いや香りはもちろんのこと、日本産特有の「うまみ」を追求した高い品質の抹茶を輸出し、世界で確たる地位を築けるように実践していきます。



【海外向け商品の開発】  
多言語での商品パッケージを開発。



【日本茶のワークショップを開催】  
海外において日本茶・抹茶の  
啓蒙・普及活動を展開。



【海外に抹茶バーをオープン】  
抹茶スイーツを提供。

活用した支援・施策

「輸出総合サポートプロジェクト」事業、  
総合食品見本市ジャパン・パビリオンに出展

ウェブサイト／ <https://www.maruyamaseicha.co.jp/>

連絡先／ 担当者名:橋本 TEL:0537-24-5588